

和田町の春日神社



A SPECIAL EDITION
by Teamぶらひがし

和田町のおもしろい
ネタをご紹介します。

今回は和田町!



燈明が灯された大晦日深夜の春日神社



春日神社

和田町の住民は、大晦日の夜、除夜の鐘が聞こえはじめる時間になると、蠟燭(ろうそく)を持参し、燈明(※とうみょう)を灯します。神社係や村役の方は、元旦朝7時の宮田宮司による祝詞(のりと)をあげるまで夜通しで燈明をお守りします。多くのご高齢の方は、祝詞の時間にあわせて参拝しますが、元気な子ども達はこの蠟燭灯しをするため、この日だけは夜更かしが許されます。

この風習は他の村でもあるのかどうかは定かではありません。少なくとも清水東地区内では行われていないようです。

※ 燈明(とうみょう)とは神仏に供える明かりの事です。灯明とも書きます。

※ 和田町出身の方より、和田町内でのみ通用するこんな格言を聞きました。

「賽銭(さいせん)忘れても蠟燭(ろうそく)忘れるな。」

春日神社の狛犬の寄進者 杉崎郡作

春日神社の狛犬の台座には、寄進者が「杉崎郡作」と彫られています。調べてみますと案外有名人で驚きです。Webで「すぎさきぐんさく」で検索してみると、貧しい中、北海道函館で一代を築き、社会福祉などの分野で功績を挙げた方と紹介されています。



狛犬
(向って右側のもの)



狛犬の台座
(字が見づらいかも)

さらに、地元の古老の方などから聞いたところ、郡作さんの父親(谷口岩松さん)は和田町出身で、風巻町(旧天津村→旧清水町。今は福井市。)の杉崎家に婿養子に入り、その後、杉崎一家は和田町に戻ったとのこと。郡作さんは、明治30年3月、三方村三留尋常高等小学校補習科を卒業(満12才)後、北海道開拓移民として両親と3人の弟とともに北海道函館に移住するまで和田町で過ごしました。

狛犬が寄進された大正11年には、北海道で初めて保導委員制度(現在の民生委員)が設けられ、郡作さんはその委員に任命されています。それを記念して狛犬を寄進されたのかもしれませんが。

石切場

和田町の東方北端に大きな石切場跡があります。奥行きは深くわかりません。和田石は、足羽山の笏谷石(しゃくだにいし)と同じ鉱脈の末端にあたり、石質はやや柔らかく霜に弱い欠点がありましたが色がよく値段が安かったため近村に売られていました。相当古くから採石されていたようですが、明治時代には笏谷石におされて採石されなくなり、採石穴に水が溜り荒れ放題になってしまいました。 記事引用: 清水町史



石切場跡

※危ないので立ち入らないでくださいね。

・ Teamぶらひがしとは、清水東公民館の広報部を中心とした有志の集まりです。日々、地区内のおもしろいネタを探しつつぶらついていきます。

和田町の私たち

和田町の村前一带は、志津川が屈曲していて、昔から水害になやまされていました。大昔はこの辺は沼地で大木が茂っていたので、水田の下2メートル位の所に、周り4・5尺の大木が折れ重なって、泥炭化(でいたんか)しかかっているとのことです。

そのため、大昔は小谷山(※①)の高台や、本堂町地籍の堂が谷(※②)などに住んでいたのではないかと思います。宝暦11年、今から257年前(2018年で計算)の村明細帳によると、堂が谷の田地315石を出作しています。これは30町歩余りの水田を、和田の者が耕作していたことになり、この堂が谷に和田の者が住んでいたのではないのでしょうか。

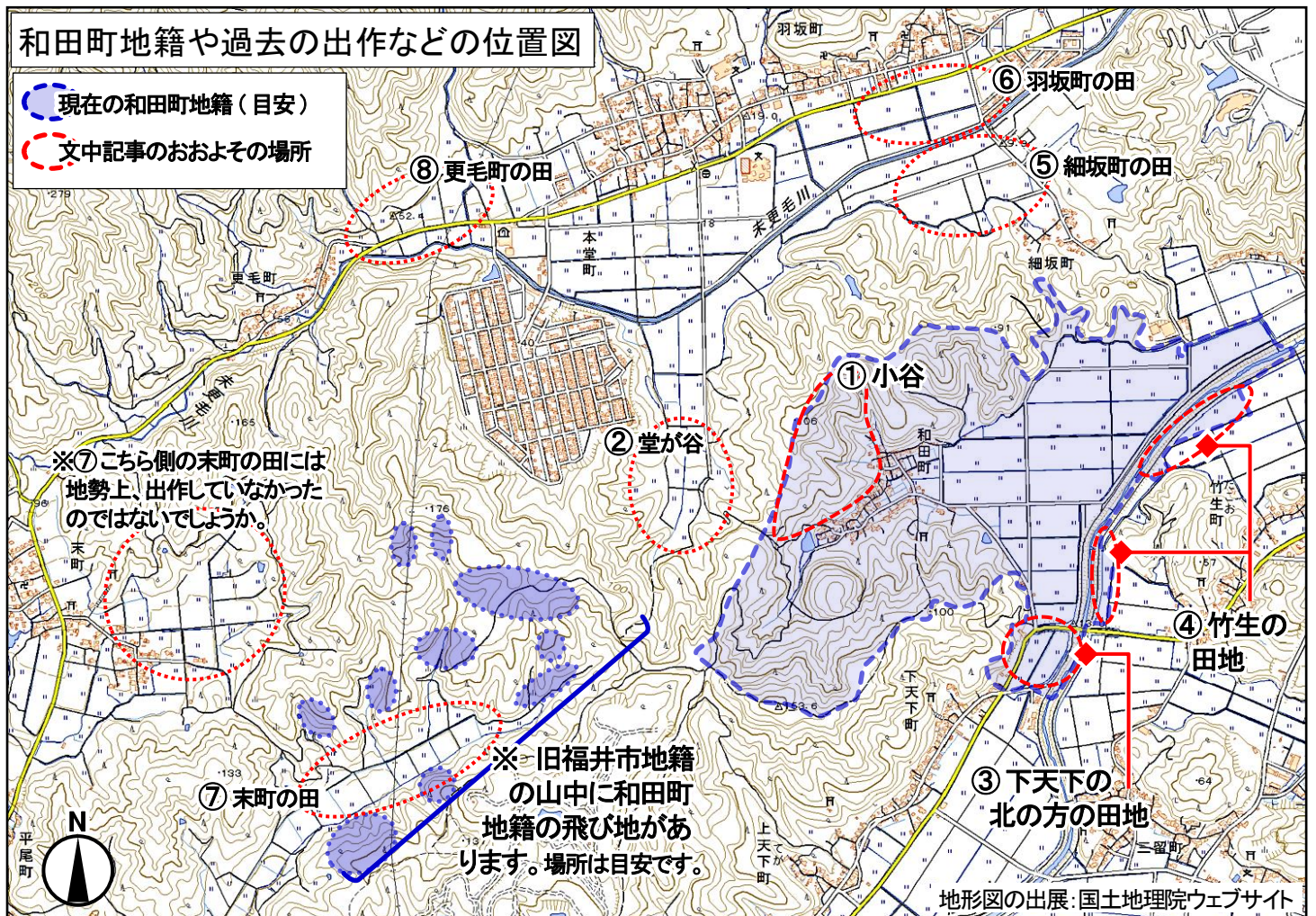
この出村には、神社やお寺があって栄えていたが、天正年間織田信長の時代、一向一揆のために焼き払われ、村人たちは親村の和田へ帰ったので、戸数も91軒にふえました。

その後、この堂が谷の山だけ残して田地は売り払い、下天下町の北の方の田地(※③)と、竹生町の志津川べりの田地(※④)10町歩余りを買取ったとの言い伝えがあります。

なお、江戸時代には細坂町(※⑤)で40石、羽坂町(※⑥)で50石、末町(※⑦)で50石、更毛町(※⑧)で55石も出作していました。堂が谷と合わせて、510石も出作していたことは、村前の田んぼが毎年洪水でほとんど水腐れになって、米がとれなかったことを物語っています。

和田という地名は、アイヌ語で「葦(あし)の生えている所」という語源であるともいわれ、県内の和田という所は湿地帯で奥まった所が多いようです。また、村ばなの下天下境に「さる屋」という地名があり、猿がたくさんすんでいたので「猿和田」といっていました。昭和30年町村合併によって清水町(旧清水町)が誕生した時「猿」の字をとって「和田」と改められました。

記事引用：清水町のむかしばなし



里川(大谷川)

和田町の大谷川は、西側上流にある大谷池というため池から町内を流れています。魚が泳ぎ、川沿いには昔ながらの石積みや笏谷石の石垣が残っています。昔ながらの風景を今も残しています。

平成29年1月、福井市の里川「大谷川」として認定されました。

